

1. 監査の種別

- (イ) 定期監査（地方自治法第199条第4項）
- (ロ) 行政監査（地方自治法第199条第2項）
- (ハ) 随時監査（地方自治法第199条第5項）
- (ニ) 財政援助団体等監査（地方自治法第199条第7項）

2. 監査実施日及び対象

(イ) 定期監査 (ロ) 行政監査

平成19年11月21日	氷上中学校、和田中学校、上久下小学校、上久下幼稚園
27日	柏原西保育所、新井小学校、新井幼稚園
12月21日	山南中学校
平成20年1月23日	企画課、恐竜を活かしたまちづくり課、職員課、 財政課、税務課、収納対策課
24日	生活安全課、環境政策課、環境整備課、 水道部業務課・工務課、消防本部
25日	社会福祉課、生活支援課、少子課、 農林振興課、新産業創造課
28日	地域医療課
29日	建設課、管理課、下水道課、 進修小学校、進修幼稚園、大路小学校、大路幼稚園
2月4日	学事課、文化創造課、 南小学校、南幼稚園、北小学校、北幼稚園
6日	青垣幼稚園、遠阪小学校、 こばと保育園、ながの保育園、わかくさ保育園
7日	船城小学校、船城幼稚園、吉見小学校、前山小学校、 市島中学校、三輪小学校、三輪幼稚園

書面による監査

平成19年11月13日～随時	事務部局 学校等	心の合併室外29ヶ所 柏原中学校外27ヶ所
----------------	-------------	--------------------------

(ハ) 随時監査

工事監査

平成19年6月27日	柏原・氷上学校給食センター建設工事及び厨房機器購入
6月28日	上垣浄水場土木・建築工事
平成20年2月5日	稲土市民農園整備工事休憩棟建築工事

備品監査

平成20年2月5日	青垣公民館、植野記念美術館
-----------	---------------

(二) 財政援助団体監査

平成19年 6月20日

社会福祉法人 青垣福祉会

10月22日

社会福祉法人 恩鳥福祉会

平成20年 2月 5日

丹波市観光協会

3. 監査の主眼と方法

本年度の監査は、年度当初に定めた実施計画をもとに、各課と出先機関並びに財政援助団体の一部を監査対象として、監査資料・関係書類等の提示を求め担当部長をはじめとする職員の説明を聴取し、事務事業の執行が地方自治法第2条第14項及び第15項の規定の趣旨に沿ったものであるか否かに重点をおき、主に平成19年度の予算執行状況に対し監査基準を準拠し、例月出納検査や決算審査等を勘案の上、市の行財政改革の視点を考慮しながら市行政の合規性・効率性について考察を行った。

4. 監査の結果

監査対象とした事務事業は、予算、議決並びに関係法令・条例・規則等に適合した処理・執行・管理がされていると認められたが、一部においては是正、改善や検討を必要と判断するものもあり、主なものを「意見及び要望」として記述したので、内容を十分に把握してそれぞれ必要な措置を講じられたい。

定期・行政監査

企 画 部

企 画 課

◆組織及び事務事業

課長以下11人で、市政の基本的かつ総合的な企画調整、土地利用政策、公共交通の整備・推進、情報化の推進、情報処理機器や情報システムの管理運営、定住促進、宅地分譲等に関することを主な事務事業としている。

●意見及び要望

- ①丹波市のPR用にプロモーションビデオが作成委託されている。産業、観光などの発展と丹波市の活性化に結びつく有効な活用を図られたい。
- ②JR福知山線の利用増進対策を推進しているが、乗降客は減少の傾向にある。福知山線の複線化に向け、福知山線複線化推進協議会や近隣の関係市との連携を図り、利用増進対策に努められたい。

恐竜を活かしたまちづくり課

◆組織及び事務事業

課長以下3人で、恐竜化石の活用方策など恐竜を活かしたまちづくりに関することを主な事務事業としている。

●意見及び要望

- ①恐竜化石の発見は丹波市にとって明るい話題であり、発見当初からの現場見学者も約3万人に達している。更に第2次発掘調査も開始され、恐竜化石のクリーニング施設「丹波竜化石工房」も開設されたことにより市民の期待も大きく広がっている。恐竜を活かしたまちづくり計画を早期に策定し、県立人と自然の博物館との十分な調整を図りながら、より良きまちづくりがなされることを期待する。

総 務 部

職 員 課

◆組織及び事務事業

課長以下7人で、職員の人事、給与、福利厚生、研修、公務災害補償等に関することを主な事務事業としている。

●意見及び要望

- ①各種手当の支給の誤払いが生じている。現況調査や変更届などについては特に周知を図り、適正な事務処理に努められたい。
- ②行財政改革に伴う職員定数の見直しについては、行政改革実施計画の取り組みを鑑み、適正な職員配置計画に基づき推進されたい。
- ③職員の積極的な研修の取り組みがされているが、更に職員の資質の向上に努められたい。

財 務 部

財 政 課

◆組織及び事務事業

課長以下18人（うち非常勤一般職1人）で財政計画及び資金計画、予算の編成、配当、執行管理、地方交付税、地方債、公有財産や庁舎及び附属施設、公用車、物品などの管理と調整、行政改革の推進、行政評価等に関することを主な事務事業としている。

●意見及び要望

- ①行政改革の推進に向け、行政評価システムの構築業務を委託されている。事務事業評価などの取り組みが、行政運営の透明性、適法性、効率性、妥当性など計画的かつ効果的に、予算や実施計画に結びつく制度となるよう期待する。
- ②丹波市所有財産の利活用や未利用・遊休物件の売却等について、積極的な検証を行うと共に財産の管理が適正且つ効率的に運用されるよう期待する。

税 務 課

◆組織及び事務事業

課長以下34人（うち非常勤一般職2人）で、個人市民税、法人市民税、軽自動車税、国民健康保険税、市たばこ税及びその他の税、固定資産税の賦課及び徴収等に関することを主な事務事業としている。

●意見及び要望

- ①未収金の徴収に努力されているが、未収金額は増加の傾向にある。新たな未納が発生しないよう、日常の管理と共に徴収方法を検討するなど、徴収の強化に努められたい。
- ②固定資産税の評価替にあたり、路線価方式への移行については、住民の理解が得られるよう十分な説明を行われたい。

収 納 対 策 課

◆組織及び事務事業

課長以下5人で、公共料金等の収納対策・滞納整理に関することを主な事務事業としている。

●意見及び要望

- ①平成19年度に繰越された各会計の未収金総額は10億8千173万円（平成19年12月末現在）であり、年々増加の傾向にある。差押による物件のインターネット公売、年末の特別徴収など一定の成果が見受けられるが、更に積極的な徴収に取り組み、未納者の納付意識の向上に努められたい。
- ②関係各課の徴収マニュアルに不備なものがある。徴収方策の整備についても、十分な指導、調整を行い、未収金の解消が図れるよう努められたい。

生 活 部

生 活 安 全 課

◆組織及び事務事業

課長以下7人で、消費生活の相談、指導、啓発、生活安全対策、防犯及び青少年健全育成、交通安全対策の企画、調整及び水防計画、防災会議、災害対策本部等に関することを主な事務事業としている。

●意見及び要望

- ①市民の消費生活における相談、苦情など高齢者に対する被害事例が多く発生している。市民の安全な生活が維持されるよう未然防止対策を十分に行うとともに専門的な相談業務の推進ができるよう努められたい。
- ②丹波防犯協会に助成を行っているが、市民の安心で安全な生活環境を守るため地域の自主防犯活動への支援を行い、防犯組織の充実を図られたい。
- ③出張命令兼旅費精算請求書等において必要事項に記載のないまま、上司の決裁がされている。日常事務、業務の管理資質も問われることから、決裁規定に基づく慎重且つ適正な決裁処理をされたい。

環 境 部

環 境 政 策 課

◆組織及び事務事業

課長以下8人で、環境保全対策、動物等の飼養又は収容、自然保護の普及啓発、環境美化、墓地計画、改葬許可事務、斎場及び付帯施設の運営、維持管理、畜犬登録及び狂犬病予防、廃棄物の不法投棄対策、大気汚染、水質汚濁、騒音・振動などの公害対策、旅館業等の設置等に関することを主な事務事業としている。

●意見及び要望

- ①市内各所におけるごみの不法投棄は後を絶たない状況である。保健衛生推進協議会などの協力の下、不法投棄防止の啓発やパトロールなどの対策を十分に行い、環境美化に努められたい。
- ②監査資料の差し替えが非常に多く、監査に支障をきたした。日常事務、業務の管理資質も問われることから、提出にあたっては内容確認を十分に行われたい。

環 境 整 備 課

◆組織及び事務事業

課長以下37人（うち非常勤一般職12人、臨時1人）で、環境施設整備、一般廃棄物処理計画及び再利用計画、し尿廃棄物、資源化等ごみ減量施策及びリサイクル推進、へい獣処理、ごみ処理施設及び付帯施設の運営と管理、ごみ処理手数料の徴収事務等に関することを主な事務事業としている。

●意見及び要望

- ①ごみ運搬委託料の経費節減には努力されているが、更にごみ減量対策を推進し、より一層の節減に努められたい。
- ②一般廃棄物処理施設建設事業の予算執行率が0.3%となっている。市民の生活にとって欠かせない施設であり、早期に建設計画が推進されるよう努められたい。

福 祉 部

社 会 福 祉 課

◆組織及び事務事業

課長以下9人（うち非常勤一般職1人）で、社会福祉施策や高齢者福祉施策の企画及び調整、社会福祉団体の指導、育成や民生委員・児童委員、福祉バスの運行管理、社会福祉施設の管理、生活保護等に関することを主な事務事業としている。

●意見及び要望

- ①歳入予算執行状況調で収入調定が遅れているものがある。適正な事務処理をされたい。
- ②生活保護扶助費が年々増加の傾向にある。生活保護受給者の自立を促す就労支援などの推進を図られたい。
- ③各種団体等の事務取扱いについて、通帳、印鑑を一括して保管している。施錠のできる場所に別々で保管されたい。
- ④丹波市老人クラブ連合会などの団体については、自立運営に向け指導されるよう努められたい。

生 活 支 援 課

◆組織及び事務事業

課長以下29人（うち非常勤一般職6人）で、居宅介護支援事業の運営、地域包括支援センター、高齢者福祉、身体障害者、知的障害者、精神障害者、障害児の福祉等に関することを主な事務事業としている。

●意見及び要望

- ①各種障害福祉活動団体への補助金が交付されている。財政援助団体等の補助金が効率的、有効的に活用されるよう支援、指導に努められたい。

少 子 課

◆組織及び事務事業

課長以下15人（うち非常勤特別職2人）で、児童福祉、児童手当、児童扶養手当、子育て支援事業、少子化対策、保育所運営と管理、保育料決定、保育所入所措置、幼保一元化、家庭児童相談、母子自立支援、女性相談、要保護児童対策等に関することを主な事務事業としている。

●意見及び要望

- ①地域子育て支援や認定こども園の運営等に補助金が交付されている。補助金が効率的、有効的に活用されるよう支援、指導に努められたい。

- ②保育料の未収金の徴収については、鋭意努力されている。12月末現在の収納率は87.8%となっている。積極的な徴収に取り組み、恒久的な未収金とならないよう万全を期されたい。
- ③事務事業の起案、伺いにおいて、必要事項の記載のないものなどに上司の決裁がされている。日常事務、業務の管理資質も問われることから、決裁規定に基づき慎重且つ適正な決裁処理をされたい。

(少子課所管)

柏原西保育所

◆組織及び事務事業

所長以下11人（うち非常勤保育士5人、非常勤調理員1人）で、身の周りの事を自分でしようとする気持ちを育てる。保護者や友達と親しみ、友達とふれ合い安心して自分のしたい遊びに取り組む。身近な社会や自然の出来事に興味や関心を持ち、見たり触れたりするなどをねらいとして保育事業に取り組んでいる。延長保育は29人程度の園児を受け入れている。

園児数は、平成19年5月1日現在、1歳児5人、2歳児8人、3歳児25人（2クラス）、4歳児28人（2クラス）で、定員90人中66人（6クラス）となっている。

●意見及び要望

- ①遊具については点検簿により点検を行い、不具合については修繕をして使用している。定期点検を十分に実施し、安全確保に努められたい。

こばと保育園

◆組織及び事務事業

園長以下7人（うち非常勤保育士2人、運転員1人）で、みんななかよし「ありがとう」のいえる子、最後までやり通すたのもしい「こばとっ子」、自然の中で力いっぱいあそぶ元気な子を年間の保育目標として保育事業に取り組んでいる。また延長保育は12人程度の園児を受け入れている。

園児数は、平成19年5月1日現在、0、1歳児3人、2歳児4人、3歳児9人、4歳児12人で、定員45人中28人となっている。

●意見及び要望

- ①平成20年3月31日を以って閉園となるが、跡地について有効活用が図れるよう検討されたい。

ながの保育園

◆組織及び事務事業

園長以下9人（うち非常勤保育士4人、運転員1人）で、健康な子ども、心豊かな明るい子ども、仲間と共に育つ子ども、創造し表現する子どもを園目標として保育事業に取り組んでいる。また、延長保育は30人程度の園児を受け入れている。

園児数は、平成19年5月1日現在、1歳児5人、2歳児7人、3歳児14人、4歳児15人で、定員60人中41人となっている。

●意見及び要望

- ①平成20年3月31日を以って閉園となるが、跡地について有効活用が図れるよう検討されたい。

わかくさ保育園

◆組織及び事務事業

園長以下12人（うち非常勤保育士4人、非常勤調理員2人、運転員1人）で、こころもからだも強い子、自分からやろうとする子、友だちと仲良く遊べる子、すすんであいさつのいえる子を園目標として保育事業に取り組んでいる。また、延長保育は27人程度の園児を受け入れている。

園児数は、平成19年5月1日現在、1歳児7人、2歳児14人、3歳児11人、4歳児29人で、定員60人中61人となっている。

●意見及び要望

- ①非常持ち出しの重要書類について担当課でデータを保管するなど消失を防ぐ対策を検討されたい。
②郵券受払簿の内容確認が容易にできるよう様式を改善されたい。

健 康 部

地 域 医 療 課

◆組織及び事務事業

課長以下3人で、地域医療対策、休日診療所運営事業、小児救急対応病院群輪番制運営事業、病院群輪番制運営事業、平日夜間一次救急運営事業等に関することを主な事務事業としている。

●意見及び要望

- ①地域医療における医師不足は全国的な課題であり、丹波市内の2次医療機関においても例外ではない。地域医療を取り巻く情勢は、市民の関心も高く地域医療のあり方を早期に策定し、地域医療対策に取り組まれることを期待する。

産 業 経 済 部

農 林 振 興 課

◆組織及び事務事業

課長以下29人（うち非常勤一般職5人、非常勤特別職1人、臨時6人）で、担い手後継者対策、農業制度資金、農業用施設の管理、農業振興、生産調整、特産物振興、有害鳥獣対策、市島有機センターの運営管理、林業振興等に関することを主な事務事業としている。

●意見及び要望

- ①生産者組織の育成や担い手農業者の育成、野猪等防除対策など多様な事務事業に取り組ん

でいる。補助や助成については適正且つ効果的なものとなるよう指導、支援を行い農林業の振興を図られたい。

②歳入予算執行状況調で収入調定が遅れているものがある。適正な事務処理をされたい。

新産業創造課

◆組織及び事務事業

課長以下47人（うち非常勤一般職5人、非常勤特別職3人、臨時27人）で、商業振興、労働対策及び雇用対策、観光振興、企業誘致、菓草菓樹公園・丹波悠遊の森・休養施設の運営管理等に関することを主な事務事業としている。

●意見及び要望

①恐竜化石の発見は観光、商業にとっても大きな期待を寄せている。観光、商業など関係団体との連携を図り、発展、振興に結びつくような事業展開をされたい。

②所管施設の維持管理を指定管理者制度の導入の方向で努力されているが、効率的な運営、維持管理が図れるよう早期導入に努められたい。

③多様な財政援助団体等への補助金や助成金が交付されている。実績報告書の収支決算書による事業の遂行状況を十分に把握し、補助金が団体の運営や管理に効率的、有効的に活用されるよう適正な指導に努められたい。

建設部

建設課

◆組織及び事務事業

課長以下16人（うち非常勤一般職1人）で、道路、河川事業の企画、計画及び調整、道路、橋梁、河川等の新設改良、維持管理、用地の取得、物件等の補償、公共土木災害復旧事業等に関することを主な事務事業としている。

●意見及び要望

①ストック用地を計画的に確保することにより、事業のスムーズな進捗が図れるよう努められたい。

②他課の工事設計などにも取り組んでいるが、技術者の育成を図り、協力体制の充実を図られたい。

管理課

◆組織及び事務事業

課長以下15人（うち非常勤一般職2人）で、道路、橋梁、河川の管理や維持修繕、法定外公共物の取り扱い、駅前広場の維持管理、除雪作業、国県事業の推進等に関することを主な事務事業としている。

●意見及び要望

①市道、公園等市管理施設の不具合による損害補償が発生している。道路パトロール等を強化し、適正な維持管理に努められたい。

- ②出張命令兼旅費精算請求書等において必要事項に記載のないまま、上司の決裁がされている。日常事務、業務の管理資質も問われることから、決裁規定に基づく慎重且つ適正な決裁処理をされたい。

下 水 道 課

◆組織及び事務事業

課長以下20人（うち非常勤一般職1人）で、下水道事業の計画、設計、施工や下水道施設の維持管理及び使用料、分担金、負担金の賦課、徴収等に関することを主な事務事業としている。

●意見及び要望

- ①平成19年度に繰越された下水道各会計の使用料、分担金の未収金は5千712万円となっている。収納率向上に努力はされているが、年間の収納目標を立てるなど計画的な徴収に取り組み、新たな未収金の発生を防ぐよう収納意識の向上に努められたい。
- ②未収金の夜間徴収において、徴収金を個人が翌日まで保管している場合がある。公金の管理、保管方法について保管箇所、チェック体制などを検討されたい。
- ③監査資料の記入間違い、記入もれ、内容の重複など不備な内容が非常に多く、監査に支障をきたした。日常事務、業務の管理資質を問われることから、提出にあたっては内容確認を十分に行われたい。

消 防 本 部

総務課・予防課・消防課

◆組織及び事務事業

総務課は課長以下9人で、消防財政計画、消防計画、消防力の配置計画及び基準、消防事業の調査研究及び改善、消防団、消防施設設備等に関することを主な事務事業としている。

予防課は課長以下5人で、火災予防対策、自主消防組織の育成及び指導、危険物施設の許可、届出及び検査等に関することを主な事務事業としている。

消防課は署長以下60人で、警防対策及び警防計画、救急救助業務、救急駐在所の管理、消防車両及び消防機械器具の管理、通信機器の管理と保全、無線施設の管理と運営、緊急通報センター施設及び情報管理等に関することを主な事務事業としている。

●意見及び要望

- ①消防施設において、原因者不明による第三者行為の工事費が100%市の負担となっているものがある。工事等の支出根拠となるものが不十分であり、内部の規定等を整理し根拠に基づいた予算執行を図られたい。
- ②消防詰所の水道で25mm口径が使用されている所がある。日常管理の必要に応じた口径にされるよう検討されたい。
- ③出張命令兼旅費精算請求書等において必要事項に記載のないまま、上司の決裁がされている。日常事務、業務の管理資質も問われることから、決裁規定に基づく慎重且つ適正な決裁処理をされたい。

水 道 部

業 務 課 ・ 工 務 課

◆組織及び事務事業

業務課は課長以下14人（うち臨時1人）で、水道事業及び簡易水道事業経営の事業計画、総合調整、資金計画、料金の徴収、水道メーターの維持、管理等に関することを主な事務事業としている。

工務課は課長以下15人で、水道施設の設計、施工及び監督、維持管理、補修及び水質検査や水圧検査、配水池や加圧所等の維持管理等に関することを主な事務事業としている。

●意見及び要望

- ①平成19年度に繰越された水道料金の未収金は9千318万円となっている。収納率向上に努力はされているが新たな未収金の発生を防ぐため、厳格な体制で徴収に取り組み収納意識の向上に努められたい。
- ②効率的な資金の運用が図られているが、資金運用管理委員会の設置を検討するなど、安全かつ有効な資金運用がなされるよう努められたい。
- ③漏水対策に努力されているが、青垣地域と山南地域は有収率が低い状況にある。有収水量の適正な確保が図れるよう計画的な漏水対策に努められたい。
- ④出張命令兼旅費精算請求書等において必要事項に記載のないまま、上司の決裁がされている。日常事務、業務の管理資質も問われることから、決裁規定に基づく慎重且つ適正な決裁処理をされたい。

教 育 委 員 会

学 事 課

◆組織及び事務事業

課長以下104人（うち非常勤一般職47人、臨時27人）で、学校（園）の運営、防災、予算編成及び執行、就学及び入園の事務、預かり保育の運営、学校給食の運営及び給食物資の管理、学校給食施設整備等に関することを主な事務事業としている。

●意見及び要望

- ①給食費の未収金対策については、新たな未収金の発生を防ぐため、厳格な体制で徴収に取り組み納付意識の向上に努められたい。
- ②食の安全性が問われるなか、給食の食材についても高い安全性が求められている。地産地消や郷土の食文化の継承を図るなど、食育の充実と安全、安心な給食の供給に努められたい。
- ③賃金等の支払いで2重支払いの例がある。所管事務のチェック体制を充実し、遺漏のない事務処理に努められたい。

文 化 創 造 課

◆組織及び事務事業

課長以下15人（うち非常勤一般職5人）で、芸術文化、文化財に係る諸施策の企画、調整、市展、文化ホールの企画、運営及び管理、文化財の保護、指定、維持管理、埋蔵文化財の発掘調査等に関することを主な事務事業としている。

図書館は事務局長（兼任）以下19人（うち非常勤一般職8人、非常勤特別職1人、臨時6人）で、資料の収集、整理、保存や読書会、研究会、資料展示会等の主催及び奨励、館報その他読書資料の発行及び頒布等に関することを主な事務事業としている。

美術館は事務局長（兼任）以下6人（うち非常勤一般職2人、非常勤特別職1人）で、美術品及び美術に関する資料の収集、保管、展示及びこれらの観覧に関することを主な事務事業としている。

●意見及び要望

- ①ホール等のピアノ調律委託において、1社見積りによる契約がされている。見積りは複数社から徴集するようにされたい。
- ②山南ステージスタッフ会への補助金で積立金の措置がされている。補助要綱の趣旨に沿った執行がなされるよう審査、指導をされたい。
- ③民俗資料館の運営、維持管理を行っているが、市内に点在した資料の有効的な活用、展示について検討されたい。

氷 上 中 学 校

◆組織及び事務事業

校長以下44人（うち休職1人、臨時講師3人、非常勤一般職3人（事務補助員、介助員、SC）臨職2人（校務員））で「自ら意欲的に学び、こころ豊かにたくましく生きる生徒の育成」を教育目標としている。

基本方針は、命の大切さや人権尊重の精神を教育活動の根底に置き、あらゆる差別やいじめの根絶、社会の変化に対応し、主体的に生き抜くための確かな学力、道徳的実践力、社会性を涵養する教育、生徒の豊かな心やたくましさを培う教育や一人ひとりを大切にする教育の推進に取り組んでいる。

生徒数は609人で学級数は18クラス（平成19年5月1日現在）である。

●意見及び要望

- ①学校にソーラー発電設備が整備され、電気代等の経費節減等効率的な活用が図られている。他校にない設備であり、環境教育面においても活用をされることを望む。
- ②セーフティーたんば号が導入されたが、日常の始業時点検がされていない。安全運転に留意し、定期的に点検を行われたい。
- ③学校防災計画に基づき、校舎内の安全点検を実施されたい。

山 南 中 学 校

◆組織及び事務事業

校長以下26人（うち臨時講師1人、非常勤一般職4人（SC、調理員2人、介助員）、臨職1人（校務員））で「自ら学ぶ意欲を持ち、心豊かにたくましく生きる力をはぐくむ生徒の育成」を教育目標としている。

校内研究として「子ども理解を核として、学ぶ意欲を高め、心豊かな生徒を育成する」～

生命の尊さ、望ましい人間関係、人間としての在り方生き方を考え実践する生徒～を研究主題として、生徒一人ひとりが生命の大切さを実感し、望ましい人間関係をつくることを通じ、人間や社会に目を向け、人間としての在り方や生き方が考えられるようにし、人権教育を核とした個々に寄り添うきめ細かな教育に取り組んでいる。

生徒数は223人で、学級数は8クラス（平成19年5月1日現在）である。

●意見及び要望

- ①山林を含む広い校地であり周囲からは容易に侵入が可能である。防犯面においては特に不審者等の侵入などに日常から十分注意を払われたい。
- ②学校防災計画に基づき、校舎内の安全点検を実施されたい。

和田中学校

◆組織及び事務事業

校長以下23人（うち臨時講師1人、非常勤一般職4人（SC、調理員3人）、臨職1人（校務員））で「支え合い、磨き合い、高め合う学校」を教育目標としている。

校内研究として「確かな学力と豊かな心の育成」～心をみつめ、自ら考え判断して行動できる子どもの育成を目指して～を研究主題として、個に応じた学習指導の推進と「学ぶ楽しさ・わかる喜び」のある授業、幼稚園・小学校との連携と授業交流を通して、生徒理解や生徒支援を推進する教育に取り組んでいる。

生徒数は、174人で学級数は7クラス（平成19年5月1日現在）である。

●意見及び要望

- ①学校の施設、設備の改善、整備事項が多数出されている。安全確保が保てるよう計画的な改修を検討されたい。
- ②学校防災計画に基づき、校舎内の安全点検を実施されたい。

市島中学校

◆組織及び事務事業

校長以下33人（うち休職1人、派遣1人、臨時講師2人、非常勤講師4人、非常勤一般職1人（事務補助員）、臨職1人（校務員））で「自ら学び心豊かにたくましく生きる生徒の育成」を教育目標としている。

校内研究として「自ら学び、心豊かにたくましく生きる生徒の育成」を研究主題として、豊かな心を育む教育、生徒が主体的に活動する教育、人間的なふれ合い、心の通い合う指導、きめ細かな指導の充実などに取り組んでいる。

生徒数は、317人で学級数は10クラス（平成19年5月1日現在）である。

●意見及び要望

- ①郵券の管理について、県の補助事業分で購入した切手を市費の受払簿に計上していた。適正な事務管理を行なわれたい。
- ②校門前が急な坂道で、降りたところの交差点には信号機が設置されたが危険な場所となっている。引き続き安全指導に努められたい。

新井小学校

◆組織及び事務事業

校長以下18人（うち休職1人、臨時講師1人、非常勤一般職1人（介助員）、臨職1人（校務員））で「こころ豊かで、自ら学び、明日を拓く新井っ子の育成」を教育目標としている。

校内研究として「一人ひとりが考えを持ち、伝え合える子をめざして」を研究主題として、国語科教育や人権教育・特別支援教育に取り組んでいる。

生徒数は、171人で学級数は9クラス（平成19年5月1日現在）である。

●意見及び要望

- ①交通量が多くかつ歩道も狭い通学路がある。登下校時の交通指導など児童の安全確保に努められたい。

新井幼稚園

◆組織及び事務事業

園長以下6人（うち園長・教頭はそれぞれ小学校長・教頭が兼務、預かり保育指導員2人）で「心身ともにすこやかで、いきいきと活動する子どもの育成」を教育目標としている。

園内研究として「自分らしさを発揮し、いきいきと遊ぶ子どもの育成」～幼児理解と教師の役割・環境構成のあり方～について、幼児との生活をともにし、一人ひとりの内面を大切に心の動きに応じた援助や豊かな体験の積み重ね、人の大切さや人に関わる力、家庭や地域との連携により生活習慣の定着を図り、主体的な子どもを育て、自ら興味や関心を持つ環境構成を探るなどに取り組んでいる。

園児数は5歳児1クラス30人（平成19年5月1日現在）である。

●意見及び要望

- ①園舎が道路と運動場をはさみ小学校舎と離れているため、園長や教頭との連携がとりにくい状況がある。有事の際の対応についての対策を普段から十分確認しておかれたい。

南小学校

◆組織及び事務事業

校長以下21人（うち休職2人、臨時講師2人、非常勤一般職1人（介助員）、臨職1人（校務員））で「自ら学び、心豊かに、たくましく生きぬく南っ子の育成」を教育目標としている。

校内研究として「友だちをたいせつにし、いじめをゆるさない南っ子」を研究主題として、道徳、国語科を中心に伝え合う力・正しい判断力等を育て、学級・児童活動、学校行事を通じての仲間づくり、いじめ防止に向けた地域との連携などに取り組んでいる。

生徒数は、188人で学級数は10クラス（平成19年5月1日現在）である。

●意見及び要望

- ①セーフティーたんば号が導入されたが、日常の始業時点検がされていない。安全運転に留意し、定期的に点検を行われたい。
- ②学校災害対策本部設置マニュアルにおいて連絡先の記入がないなどの不備な箇所が見受けられる。マニュアルの整備をされたい。

南 幼 稚 園

◆組織及び事務事業

園長以下6人（うち園長・教頭はそれぞれ小学校長・教頭が兼務、助教諭1人、預かり保育指導員1人）で「心豊かにたくましく、生き生きと活動する子の育成」を教育目標としている。

園内研究として「人とかかわる楽しさを感じ、自己発揮する子どもをめざして」主体的に遊び、自己発揮できる保育内容の創造や多様な人々との出会いや感動の場を工夫し、豊かな感性を育てるなどに取り組んでいる。

園児数は5歳児2クラス31人（平成19年5月1日現在）である。

●意見及び要望

①不審者事案が発生している。登降園時の安全確保に十分留意されたい。

北 小 学 校

◆組織及び事務事業

校長以下30人（うち休職1人、臨時講師1人、非常勤講師1人、非常勤一般職2人（アシスタント、介助員）で「人・物・時間を大切にする子どもの育成」を教育目標としている。

校内研究として「きのうより一步のびるぼく（わたし）」～言葉を大切に読みとり、伝え合う力を高める国語科学習～を研究主題として、一人ひとりが読むこと、読み取ることの楽しさを身に付け、言語の力を会得し、国語の能力と態度を育むことや少人数学習やチームティーチング、合同学習、交換授業などを取り入れ、個に応じたきめ細やかな学習指導などに取り組んでいる。

生徒数は、253人で学級数は13クラス（平成19年5月1日現在）である。

●意見及び要望

①交通量の多い県道が通学路となっている地区がある。登下校時の安全確保には十分留意されたい。

北 幼 稚 園

◆組織及び事務事業

園長以下7人（うち園長・教頭はそれぞれ小学校長・教頭が兼務、助教諭1人、預かり保育指導員2人）で「心豊かにたくましく、意欲的に活動する子」を教育目標としている。

園内研究として「体験活動を通して豊かな感性を育み意欲的に取り組む子どもをめざして」～健康な心と体を育む体験や環境の工夫を探る～について、幼児の柔らかな心を耕し、豊かな心の芽を育むことや園・家庭・地域と連続した生活の中で、心揺さぶる体験の積み重ね、想像力を働かせて豊かに遊ぶ、楽しく生活できる環境の見直しや工夫などに取り組んでいる。

園児数は5歳児2クラス36人（平成19年5月1日現在）である。

●意見及び要望

①敷地内を里道が通っているため完全に通路を閉められない状況がある。防犯等の安全管理には十分注意されたい。

青 垣 幼 稚 園

◆組織及び事務事業

園長以下9人（うち園長・教頭はそれぞれ小学校長・教頭が兼務、助教諭1人、介助員1人、預かり保育指導員3人）で「自己を十分発揮し、表現する意欲を培い創造性を豊かにする。健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身につける。人と自然とのかかわりを通して、人権感覚を育成する。」を教育目標としている。

園内研究として「さまざまな体験を通して表現する力を養い、創造性を豊かにする子をめざして」～子どもの思いを豊かに表現させるための指導のあり方～について、人的環境、園内環境、地域環境のあり方、取り入れ方や生き生きと遊ぶための援助、さまざまな体験ができる機会を増やすことなどに取り組んでいる。

園児数は5歳児2クラス59人（平成19年5月1日現在）である。

●意見及び要望

- ①防災計画書において、防災委員会の委員に幼稚園教諭が入っていない。独立園でもあり現場の教諭を委員に加えられるたい。
- ②不審者対応等のための危機管理マニュアルが策定されていない。早急に策定されたい。

遠 阪 小 学 校

◆組織及び事務事業

校長以下15人（うち休職3人、臨時講師3人）で「心豊かで自立し、たくましく生きる遠阪っ子の育成」を教育目標としている。

校内研究として「豊かに伝え合う力を高める児童の育成」～楽しく、意欲的に学び、論理力を育てる授業づくり～を研究主題として、研究の活性化と成果・課題の共有化、読書意欲、読書量の向上のための環境整備、学力向上のため、基本的な生活習慣の実態分析と個別指導、人権、課題教育の推進などに取り組んでいる。

生徒数は、67人で学級数は6クラス（平成19年5月1日現在）である。

●意見及び要望

- ①学校防災計画に基づき、校舎内の安全点検を実施されたい。

大 路 小 学 校

◆組織及び事務事業

校長以下16人（うち臨時講師1人、非常勤一般職2人（アシスタント、介護員）、臨職2人（事務職員、校務員））で「心身ともに健康で、たくましい実践力をもつ児童の育成を図り、国際社会に生きる資質を養う」を教育目標としている。

校内研究として「自ら求め、共に学ぶ児童の育成」～認め合い、伝え合い、高め合う国語科学習～を研究主題として、お互いの考えを尊重し合い、共感し合える仲間づくり、自分の考えを持ち、伝え合える学習活動の工夫などに取り組んでいる。

生徒数は、105人で学級数は7クラス（平成19年5月1日現在）である。

●意見及び要望

- ①郵券の管理について、残枚数が相当数あるが追加購入していた。必要以上の在庫は持たないことが望ましい。

②遠距離のためバス通学を実施している地区があるなど校区も広範囲にわたっているが、お
おじ防犯8など地域を挙げた協力体制も整っている。更なる地域との連携により安全対策
の向上に努められたい。

大 路 幼 稚 園

◆組織及び事務事業

園長以下5人（うち園長・教頭はそれぞれ小学校長・教頭が兼務、助教諭1人）で「友だちと共に、生き生きと遊び、心豊かで、たくましく生きる子どもの育成」を教育目標としている。

園内研究として「友だちと心を通わせながら、自己発揮して遊ぶ子をめざして」～つくる楽しみ、生かす喜び～について、幼児の内面理解を深め、豊かに表現できるようにする。社会生活上のルールを身に付けていく場の設定や指導のあり方、安心して遊べる環境や援助などに取り組んでいる。

園児数は4歳児10人、5歳児14人の2クラス24人（平成19年5月1日現在）である。

●意見及び要望

①不審者の侵入など緊急時の小学校との連絡設備がないので、校園舎の連携、連絡方法等について検討されたい。

進 修 小 学 校

◆組織及び事務事業

校長以下15人（うち臨時講師1人、非常勤一般職1人（介助員1、臨職1人（校務員））で「私もあなたも磨き合い、成長し合い、元気いっぱい輝いて生きる」を教育目標としている。

あんでな高く、ともだちを大切に、むずかしいことにも挑戦と「あ・と・むの学校」を活動スローガンに取り組んでいる。

生徒数は、95人で学級数は6クラス（平成19年5月1日現在）である。

●意見及び要望

①外周フェンス、防犯カメラが設置され防犯面においては比較的整備されている。更なる安全対策の向上に努められたい。

進 修 幼 稚 園

◆組織及び事務事業

園長以下5人（うち園長・教頭はそれぞれ小学校長・教頭が兼務、助教諭1人）で「豊かな心を育み、自ら取り組む意欲とたくましい身体を持つ幼児の育成」を教育目標としている。

園内研究として「自分らしさを発揮し、豊かな心をもつたくましい子をめざして」～地域とのふれ合いと、心のつながりを求めて～自分の思いを表現し、互いに共感し合うにはどのような環境や援助が必要か、成熟感や満足感を味わわせるための援助のあり方の研究や家庭や地域がそれぞれの機能を発揮できるよう、信頼関係を深め連携に努力し、多くの体験を得るよう地域行事に出かけたり、地域の方を招き保育内容の充実などに取り組んでいる。

園児数は4歳児11人、5歳児9人の2クラス20人(平成19年5月1日現在)である。

●意見及び要望

- ①職員室から園庭が見渡せない。園舎の位置も小学校との連携がとりにくい配置となっていることから防犯等危機管理対応には特に留意されたい。

船 城 小 学 校

◆組織及び事務事業

校長以下14人(うち臨時講師1人、臨職1人(校務員))で「心豊かで自ら学び自ら考え、地域に根ざして21世紀をたくましく生きる児童の育成」を教育目標としている。

校内研究として「伝える楽しさ、わかる喜び」～意見がつながりあう授業をめざして～を研究主題として、話し手、聞き手のやり取りができる場を設定し、お互いの意見がつながりあう授業づくりや児童の意見を引き出す発問や支援の仕方などに取り組んでいる。

生徒数は、84人で学級数は7クラス(平成19年5月1日現在)である。

●意見及び要望

- ①郵券受払簿の管理者確認が行われていない。定期的に確認するよう努められたい。

船 城 幼 稚 園

◆組織及び事務事業

園長以下5人(うち園長・教頭はそれぞれ小学校長・教頭が兼務、助教諭1人)で「仲間とともに、生き生きと遊ぶ子どもの育成」を教育目標としている。

園内研究として「友だちと心を通わせながら、遊ぶ子をめざして」人や物、自然とのかかわりを持ち、豊かな体験の積み重ねができる環境づくり、自信を持って自己発揮できるよう、一人ひとりの良いところや可能性を見いだす指導の工夫、改善、社会生活のルールを身に付け思いやりの心や道徳性の芽生えを培っていける指導などに取り組んでいる。

園児数は4歳児12人、5歳児10人の2クラス22人(平成19年5月1日現在)である。

●意見及び要望

- ①不審者の侵入など緊急時の小学校との連絡設備がないので、校園舎の連携、連絡方法等について検討されたい。

上 久 下 小 学 校

◆組織及び事務事業

校長以下17人(うち臨時講師1人、非常勤一般職2人(調理員2人)、臨職1人(校務員))で「心豊かでたくましく、自ら学び、お互いに磨き合う児童を育成する」を教育目標としている。

校内研究として「自らを表現し、伝え合う集団をめざして」～伝え、受けとめ、深める国語科学習～を研究主題として、受けとめ、共感してくれる仲間づくり学級を進め、国語教育では、一人ひとりに自分の考えをしっかりと持たせ、思いや考えを伝え合う場、高め合う場を意識し、授業を行う教育に取り組んでいる。

生徒数は、103人で学級数は8クラス(平成19年5月1日現在)である。

●意見及び要望

- ①遊具について点検簿により点検を行い、不具合については保護、補修して使用している。
定期点検を十分に実施し、安全確保に努められたい。
- ②山沿いで民家のない道路が通学路になっている地区がある。地域との連携を図りながら安全対策の向上に努められたい。
- ③防犯カメラが設置され防犯面においては比較的整備がされているが、更なる安全対策の向上に努められたい。

上 久 下 幼 稚 園

◆組織及び事務事業

園長以下4人（うち園長・教頭はそれぞれ小学校長・教頭が兼務）で「仲間と共に、生き生きと遊ぶ子どもの育成」を教育目標としている。

園内研究として「さまざまな体験を通して表現する力を養い、創造性豊かにする子」を目指し、最後までやりぬく園児、地域社会や保育園、小学校との交流、思いや考えを表現しやすい仲間づくりなどに取り組んでいる。

園児数は5歳児1クラス11人（平成19年5月1日現在）である。

●意見及び要望

- ①不審者対策は防犯カメラ等でされているが、日常的に危機管理意識をもって対応されたい。

前 山 小 学 校

◆組織及び事務事業

校長以下15人（うち休職1人、臨時講師1人、臨職2人（養護教諭、校務員））で「自ら学び、たくましく生きる、こころ豊かな前山っ子の育成」を教育目標としている。

校内研究として「自分の思いが表現でき、支え認め合う子をめざして」～伝え、受け止め、響きあう国語科学習～を研究主題として、児童の実態把握と研究テーマの設定、基礎・基本を踏まえた授業づくり、子どもの変化に応じた授業づくりや環境教育などに取り組んでいる。

生徒数は、102人で学級数は8クラス（平成19年5月1日現在）である。

●意見及び要望

- ①登下校時の児童の安全確保について地域等への働きかけなどにより、一層の安全対策の向上に努められたい。

吉 見 小 学 校

◆組織及び事務事業

校長以下15人（うち臨時講師1人、非常勤一般職1人（介助員）、臨職1人（校務員））で「たくましく、心豊かで、自ら学ぶ吉見っ子の育成」を教育目標としている。

校内研究として「ともに輝け、吉見っ子」～伝え合い、高まりあう仲間をめざし～を研究主題として、人権を尊重した授業の創造と人権意識の高揚、自ら学ぶ意欲や思考力、表現力などの育成、かわり合い、認め励まし合いながら共に伸びる学習集団づくり、情報処理、活用能力を高める教育などに取り組んでいる。

生徒数は、135人で学級数は7クラス（平成19年5月1日現在）である。

●意見及び要望

①セーフティーたんば号が導入されたが、日常の始業時点検がされていない。安全運転に留意し、定期的に点検を行われたい。

三 輪 小 学 校

◆組織及び事務事業

校長以下18人（うち非常勤一般職3人（事務補助員、アシスタント、介助員）、臨職1人（校務員））で「こころ豊かで、自ら学び、たくましく生きる三輪っ子の育成」を教育目標としている。

校内研究として「ひとりひとりが輝き、ひびきあう子の育成をめざして」～確かな学びの力をつけるために（物語文を題材として）～を研究主題として、国語科、算数科等の教科学習の充実、高まりひびき合う授業の創造、豊かな人権感覚と自尊感情を育て、あらゆる差別の解消に努め、情報活用能力や社会のさまざまな変化に対応できる「生きる力」の育成などに取り組んでいる。

生徒数は、108人で学級数は8クラス（平成19年5月1日現在）である。

●意見及び要望

- ①郵券受払簿の管理者確認が行われていない。定期的に確認を行なわれたい。
- ②障害者用トイレの緊急通報ベルが故障のまま放置されている。早急に対応されたい。

三 輪 幼 稚 園

◆組織及び事務事業

園長以下5人（うち園長・教頭はそれぞれ小学校長・教頭が兼務、助教諭1人）で「人間尊重の精神を基盤として、心身ともに調和の取れた情操豊かな幼児を育成する」を教育目標としている。

園内研究として「豊かな感性とたくましい心身の育成をめざして」～自然とのふれあいや身近な環境とのかかわりを通して～園周辺の環境を生かし、自然とのかかわりや周りの人々とのふれあいを通し、感動体験を広げる、様々な活動や体験を通して、生きる力の基を育てていくことなどに取り組んでいる。

園児数は5歳児1クラス9人（平成19年5月1日現在）である。

●意見及び要望

- ①郵券受払簿の残枚数の計算に誤りがあった。適正な管理を行なわれたい。
- ②旅費が数ヶ月遅れで請求されているものがあつた。月毎に精算されたい。
- ③防犯面においては、小学校とのインターホンや県警ホットラインなどが整備されているが、日常から危機管理意識をもって対応されたい。

書 面 に よ る 監 査

本年度、実地による監査を行わなかった下記の部局等については、所定の監査資料の提出を求め、監査を実施した。

1. 監査執行日 平成19年11月13日～ 随時

2. 監査対象

- ・ 事務部局 一心の合併室、総務課、柏原支所、青垣支所、山南支所、市島支所、事業管理課、市民課、自動車教習所、人権啓発センター、地域振興課（生活部）、施設管理課、介護保険課、健康課、国保・医療課、国保診療所、農林土木課、農業共済課、地籍調査課、地域振興課（産業経済部）、都市住宅課、教育総務課、教育施設課、学校教育課、社会教育課、中央公民館（柏原、氷上、青垣、春日、山南、市島分館）、議会事務局、農業委員会事務局、会計課、監査委員事務局
- ・ 中学校 一 柏原、青垣、春日
- ・ 小学校 一 崇広、中央、東、西、佐治、芦田、神楽、黒井、春日部、久下、小川、和田、竹田、鴨庄
- ・ 幼稚園 一 崇広、中央、東、西、黒井、春日部、久下、小川、和田、竹田
- ・ 保育所（園） 一 柏原

随 時 監 査

工 事 監 査

1. 監査の要領

地方自治法第199条第5項に基づき、定期監査にあわせ次のとおり工事監査を行った。

この監査は、平成19年度定期監査実施計画を基に、建設工事の計画、設計、施工検査等が適正に且つ効率的に執行されているか否かを重きにおき、あらかじめ提出を求めた別紙資料「平成19年度部課局所管工事状況一覧表」に基づき、関係職員から関係書類の提示と説明を聴取し、現場踏査による施工、管理状況について考察した。

2. 監査実施日 平成19年6月27日、平成20年2月5日

3. 監査対象及び方法

平成19年度に繰越した建設工事並びに上半期に発注した建設工事で請負額が1,000万円以上の土木・建築工事の中から柏原・氷上学校給食センター建設工事外1工事を抽出し関係書類の精査等の工事監査を実施した。

4. 監査の結果

監査対象全体を通じて、事務の執行及び事業の管理については、概ね適正に処理されていると認められるが、要望指摘事項について、今後の事務執行に十分留意されたい。

5. 監査結果の概要

ア、監査対象工事

(1) 柏原・氷上学校給食センター建設工事及び厨房機器購入

1. 概 要

- ①工 事 名 ア. 教施工第013号 柏原・氷上学校給食センター建設工事
イ. 教施物第001号 柏原・氷上学校給食センター厨房機器購入
- ②工事場所 丹波市氷上町石生
- ③工事概要 ア. 鉄骨造 2階建 敷地面積 6712.68 m² 建築面積 2417.73 m²
延床面積 3169.42 m² 1階 2079.89 m² 2階 832.76 m²
その他 256.77 m² (車庫棟他)

建築主体工事、外溝工事、電気設備工事、機械設備工事 1式

イ. 調理機器 1式、洗浄機器 1式、消毒保管機器 1式

*工事期間 平成18年10月31日～平成19年7月31日

*請 負 者 ア. 12社の条件付一般競争入札の結果 株式会社 新井組
イ. 3社のプロポーザル方式の結果 (随意契約)

株式会社 アイホー大阪支店

*請負金額 ア. 834,808,800円 (税込み)

(内、補助率 定額)

	イ. 267,750,000円(税込み) (市単独)
*落札率	ア. 84.2%
*工事担当課	学校教育部教育施設課
*工事進捗状況	計画100%に対し5月末現在、実施84.9%であるが、検査日現在は外溝工事の一部を除きほぼ完成している。 厨房機器の設置もほぼ完了。
*繰越理由	実施設計業務の調査等において、調理場の厨房熱源及び使用エネルギーの確定に遅れが生じたこと、また軟弱地盤の工法検討に不測の日数を要したため工事発注が遅延し明許繰越を行った。

2. 要望指摘事項等

- この工事及び厨房機器の搬入は軟弱地盤の工法検討や厨房熱源及び使用エネルギーの確定遅れにより工期の延長を図ったものの、検査時には各工程もほぼ完了していた。今後は給食センターの円滑な運営と施設の維持管理に万全を尽くされたい。

(2) 上垣浄水場土木・建築工事

1. 概要

- ①工事名 丹簡工第1号 上垣浄水場土木・建築工事
- ②工事場所 丹波市市島町上垣
- ③工事概要 ○沈殿池築造工事 RC造1式 延床面積447.4㎡ 沈殿池上屋建築工事 RC造1式 場内造成工事 1式 場内配管工事 1式 場内整備工事 1式 進入路築造工事 1式 (平成18年度)
- 沈殿池防水工事 1式 急速濾過機基礎築造工事 1式 排泥・排水地築造工事 RC造1式 天日乾燥床築造工事 1式 場内配管工事 1式 (平成19年度 繰越)
- 送水ポンプ棟建築工事 RC造1式 延床面積189.85㎡ 場内配管工事 1式 場内整備工事 1式 進入路築造工事 1式 (平成19年度)

*工事期間	平成18年6月22日～平成20年2月25日
*請負者	11社の指名競争入札の結果 池田建設株式会社
*請負金額	176,400,000円(税込み) (内、国庫補助 1/4)

*落札率	65.9%
*工事担当課	水道部工務課
*工事進捗状況	計画70%に対し実施70% (平成19年6月27日現在)
*繰越理由	平成18年度、平成19年度の2ヵ年計画で実施。

2. 要望指摘事項等

- ・この工事は平成18年から平成20年にかけて計画された事業であり、場内造成、配管、整備工事、沈殿池築造工事、沈殿池上屋建築工事等は完成しており、沈殿池防水工事、急速濾過機基礎築造工事、排泥・排水池築造工事、天日乾燥床築造工事等の進捗状況も計画にそって進行している。今後の工程で工期に遅れることなく完了するよう努力されたい。

(3) 中山間地域総合整備事業

1. 概要

- ①工事名 稲土市民農園整備工事休憩棟建築工事
- ②工事場所 丹波市青垣町稲土
- ③工事概要 ○木造平屋建瓦棒葺 休憩棟 1.0棟 延床面積76.6㎡
・交流室、休憩室、シャワールーム、トイレ
- *工事期間 平成19年11月28日～平成20年3月25日
- *請負者 14社の指名競争入札の結果 垣本建設工業株式会社
- *請負金額 15,960,000円(税込み)
(内、国県56%、市20%、地元24%)
- *落札率 80.9%
- *工事担当課 農林土木課
- *工事進捗状況 計画65%に対し実施65%(平成20年2月5日現在)

2. 要望指摘事項等

- ・この工事は平成17年から平成21年にかけて計画されている事業であり、工事の進捗状況は計画にそって進行している、この施設は20区画の稲土棚田事業(田植え、稲刈り、脱穀、収穫祭、交流イベントなど)の休憩施設であり、都市と農村の交流の場として地域の活性化に活用されるよう、今後の工期工程が遅れることなく完了し、維持管理については、指定管理者制度などを導入し、推進されるよう努められたい。

備品監査

1 監査の要領

地方自治法第199条第5項に基づき、定期監査にあわせ次のとおり備品監査を行った。

この監査は、平成19年度定期監査実施計画を基に、関係所管課の備品が適正に管理されているか否かを重きにおき、関係職員から関係書類の提示と説明を聴取し、現物確認による管理状況について考察した。

2 監査実施日 平成20年2月5日

3 監査の対象及び内容

青垣公民館及び植野記念美術館において保管されている美術、工芸品について備品シールの貼付確認、保管状況について備品台帳等に基づき現物確認を実施した。

4 監査の結果

作品は空調設備の整った収蔵庫に保管され、事務的な管理も概ね適正に処理されていると認められるが、一部において「意見及び要望」を記述したので、今後の事務執行に十分留意されたい。

5 監査結果の意見及び要望

ア、青垣公民館

- ①青垣日本画展及び春日水彩画展の作品が保存されているが、一部、出展後引取り等がされていない作品も保管されているので、所有権の確認を行い返却等の整理を行なわれたい。
- ②備品シールの貼付位置がまちまちである。確認が容易にできるよう検討されたい。
- ③貸出先での展示作品の管理において、条件が悪い場合もあり、短期間の貸出などの方策や保険対応などの条件整備を行い、貸出規定等を検討されたい。
- ④寄贈の作品の整理がされていないので、備品台帳等への整理を図られたい。
- ⑤収蔵庫に保管されたままの作品があるが、作品の有効活用方策を検討されたい。
- ⑥美術品については、一括、美術館事務局において所管されることが望ましい。

イ、植野記念美術館

- ①民族美術品、中国陶磁器、中国絵画、日本画など約1,200点を越える作品が保管されているが、備品台帳、備品シールの貼付など整理がなされていない。作品の適正な管理が図れるようデータベース化などの整理方策を検討されたい。
- ②種々、多彩な作品があることから、貯蔵品の有効活用方策を検討されたい。

財政援助団体等監査

1. 監査の要領

地方自治法第199条第7項に基づき、定期監査にあわせ次のとおり財政援助団体監査を行った。

この監査は、平成19年度財政援助団体監査実施計画を基に、財政援助団体に交付された補助金が適正に且つ効率的に執行されているか否かを重きにおき、あらかじめ提出を求めた「平成19年度財政援助団体等監査資料」に基づき、団体代表者や関係職員から説明を聴取する方法で実施した。

2. 監査実施日 平成19年 6月20日 平成19年10月22日
平成20年 2月 5日

3. 監査対象 社会福祉法人 青垣福祉会
社会福祉法人 恩鳥福祉会
丹波市観光協会

4. 監査の結果

社会福祉法人 青垣福祉会

◆組織及び事務事業

社会福祉法人青垣福祉会は、今後の人口減少や少子化を踏まえ保育園（所）法人の合併について、子ども達によりよい保育を保障し、健全な経営と運営を確保することを目的として、旧青垣町内にあった3保育園（所）（芦田、神楽、青垣町北）が、法人の一本化に向け調査、研究を重ね、数々の協議、手続きを得て、平成14年4月1日より合併、1法人、3施設として青垣福祉会が設立され、人件費、諸経費の節減を図りながら健全な運営、管理を主に業務を遂行している。

事業の概要は、理事長以下園長3人、事務職1人をもって、3園の庶務、職員の管理や運営、経營業務を行っている。各園の現況は芦田保育園（定員60人、園児数58人、職員14人）、神楽保育園（定員90人、園児数69人、職員15人）、青垣町北保育園（定員45人、園児数33人、職員9人）で各保育園の特色を活かした保育事業を行っている。

平成18年度市補助金の内容は、施設運営費8,426,000円（本部）、3園それぞれに取り組みされている延長保育促進事業14,466,014円、一時保育促進事業810,000円、3歳児未満児受入対策事業2,226,120円、障害児保育事業6,150,000円、地域活動事業180,000円、合計補助金額は32,258,134円である。

●意見及び要望

- ① 平成18年度の市補助金は、保育園の運営及び各種保育事業の活動費に概ね充当され、補助金交付の効果があったと認められた。
- ② 将来の施設管理などに備え、保育所施設運営費補助金の内、2,817,684円（3

3. 4%)が預金積立金に充当されている。本来、保育園の運営費に要する経費が補助対象となりえるものであり、補助金が将来の施設管理のための積立金とは解し難い。補助金交付要綱の目的に沿った有効活用に努められたい。

社会福祉法人 恩鳥福祉会

◆組織及び事務事業

社会福祉法人恩鳥福祉会は、地域の知的障害者やその家族及び関係者の強い要請により更正施設と授産施設が昭和61年4月から現在までに開設されてきた。利用者がそれぞれの自立と社会経済活動への参加を促進し、地域生活への移行を図り、その人らしい生活を送れることを目指した利用者の立場に立ったサービス事業を提供している。

事業の概要は管理、運営を行っている知的障害者更正施設ポプラの家(入所・通所)、知的障害者授産施設たんば園がある。その利用状況は平成19年3月31日現在、ポプラの家の入所部、定員50名、利用者49名、通所部は、定員19名、利用者17名、たんば園は、定員40名、利用者36名となっており、平成18年11月、新たに「グループホーム元気」を開設、定員4名、利用者4名となっている。

また、理事長を始めとして施設長以下52人の職員をもって、2施設の経営や管理、運営、利用者への支援業務を行っている。

平成18年度市補助金の内容は、施設運営費5,400,000円及び施設整備資金借入金の償還金補助金10,258,613円、合計補助金額は15,658,613円である。

●意見及び要望

- ① 平成18年度の市補助金は、施設の運営及び事業活動費に充当され、事業報告書のとおり補助目的に沿った運用がなされ、補助金交付の効果があつたと認められた。
- ② 市の合併後3ヵ年を経過しており、一部、会計処理において経理規定にそぐわない経理事務がされていた。規定を遵守されるよう改善を図られたい。
- ③ 障害者自立支援法の施行に伴い施設利用者の負担が見直されたり、維持管理経費の増加など経営や運営が厳しい状況にあるが、目的に沿った日常生活への自立支援を促進するよう努められたい。

丹波市観光協会

◆組織及び事務事業

丹波市観光協会は、平成18年4月1日より旧6町の観光協会が合併し、「丹波市観光協会」を発足され、丹波市役所柏原支所に事務局を設置している。旧町の観光協会は支部として位置づけ、組織強化や地域活性化、支部活動のあり方などを調査研究し、丹波市の特産品の普及や観光資源の開発、啓蒙普及など丹波市の観光産業の発展と観光文化の向上に寄与するよう努められている。

平成18年度は、山南町上滝において恐竜の化石が発見され、全国的なニュースとなり恐竜を活かした観光資源の開発、また丹波市の観光をPRするためのホームページによる情報提供など「丹波市はひとつ」を合言葉に各観光事業の推進に取り組まれている。

平成18年度市補助金の内容は、協会が行う事業費、事務運営費等として丹波市観光協

会に6,517,000円及び柏原支部4,014,000円、氷上支部4,120,000円、青垣支部3,590,000円、春日支部4,009,000円、山南支部3,991,000円、市島支部3,980,000円で合計補助金額は30,221,000円である。

●意見及び要望

- ① 平成18年度の市補助金は、施設の運営及び事業活動費に充当され、事業報告書のとおり補助目的に沿った運用がなされ、補助金交付の効果があったと認められた。
- ② 合併2年目を迎え、本部会計、支部会計を十分精査すると共に事務処理の一元化を図られたい。
- ③ 丹波市民の観光意識の醸成や観光客の増加を目指し、組織の強化、地域活性化、観光ボランティアの育成などの調査研究を推進し、丹波市の観光産業、文化の発展に努められたい。

む す び

以上が平成19年度定期監査等の結果である。

本年度に定期監査等を実施してきた中において、各課それぞれの監査結果は「意見及び要望」のとおりであるが、そのうち主な事項を共通事項として記述する。

1. 滞納状況において、市税をはじめとして下水道使用料等の不納欠損処理の件数並びに金額が大きくなる見込みである。未納についての日常管理がきわめて重要であることは言うまでもなく、法的根拠を確保できる債権処理の強化に努められたい。
2. 公用車、私用車を問わず、物損事故をはじめとする交通事故が昨年に引き続き多数報告されている。法令遵守を促す交通安全運転講習会等を実施するなど積極的な事故防止対策を講じ、公務員としての資質の向上に努められたい。
3. 公用車の日常点検の未実施が散見された。公用車の日常点検については、運転開始前に運転するもの自らが行うことになっており、規則に基づいた保守管理や安全かつ効率的な運行管理に努められたい。
4. 出張命令兼旅費精算請求書等において必要事項に記載のないまま、上司の決裁がされているものが散見された。安易な決裁意識は、職員としての管理資質も問われることから決裁規定に基づき慎重且つ適正な決裁処理をされたい。
5. 収入調定について、収入済額より少ない調定処理が散見された。本来収入金額が確定した段階で調定を行うべきであり、規則に基づく迅速な対応をされたい。
6. 郵券受払処理については概ね適正に行われているところであるが、受払い状況については定期的に管理責任者の確認を受けるようにされたい。
7. 備品の管理については日常の登録、廃棄手続きなど管理システムの整理を行うと共に定期的な確認事務をされるよう努められたい。
8. 各学校・園において防犯・防災計画書に基づき、それぞれ自主点検等を実施されているが、点検内容の様式が計画書の様式と差異がある所や計画書に定めた点検を実施していないところが見受けられた。早急に教育委員会で統一した様式等に見直し、園児・児童・生徒の安全確保のため日常の点検等に万全を期されたい。
9. 全国の公園等で相次ぐ遊具事故が発生したことから遊具の安全基準が見直された。市内の学校、園においては、多くの遊具が使用禁止等の緊急措置をとっており、子供達が大きな影響を受けている。児童・園児は、体を動かすことで運動機能が向上し、心身ともに健全な育

成につながることから、早急に安全基準に沿った対応をされたい。

これらの事項には、関係各課共通事項としてできるだけ早期に是正・改善に向けた対応を求めるものである。

なお、監査を進めていく中で、あらゆる部署において資料の差し替えを求められた。本監査はあらかじめ事前審査を済ませ臨んでおり、監査業務に大きな支障をきたした。調書の作成、提出にあたっては、部長以下複数の職員の決裁を経て提出されたものであり、部課内でのチェック体制の強化を強く望むものである。

最後に、平成17年度に策定された「丹波市行政改革大綱」・「丹波市行政改革実施計画」に基づき、その数値目標達成のため鋭意努力が図られているところである。今後も引き続き、市の将来の財政構造の望ましい状況を確立するため、行政改革を推進し、効率的な財政運営と事務事業の執行を強く望むものである。

参 考 資 料

平成19年11月1日現在の職員定数と現員数等は次のとおりである。

	定数	現員数	他に非常勤 一般職員数
(1) 市長の事務部局の職員	621人	518人	165人
(2) 公営企業の職員	33人	28人	0人
(3) 議会の事務部局の職員	6人	6人	0人
(4) 教育委員会の事務部局及び教育委員会 の所管に属する教育機関の職員	190人	149人	207人
(5) 選挙管理委員会の事務部局の職員	8人	(5)人	0人
(6) 監査委員の事務部局の職員	4人	3人	0人
(7) 公平委員会の事務部局の職員	7人	(3)人	0人
(8) 農業委員会の事務部局の職員	7人	6人	0人
(9) 固定資産評価審査委員会の事務部局の職員	2人	(2)人	0人
(10) 消防機関の職員	92人	74人	0人
合 計	953人	784人	372人

※ 市長の事務部局の職員現員数には、派遣職員（氷上多可衛生事務組合7人）を含む。

※ 選挙管理委員会の事務部局及び固定資産評価審査委員会の事務部局の職員現員数は市長の事務部局（総務課）の職員が兼務、公平委員会の事務部局の職員現員数は監査委員の事務部局の職員が兼務しているため内数（ ）書きで計上している。